

# 「世界の課題 解決に力を」

## 京でG20諸宗教フォーラム



諸宗教フォーラムの開会式に参加した各国の宗教指導者ら(11日午前10時10分、京都市上京区・京都府庁旧本館旧議場)＝撮影・佐伯友章

今月下旬に大阪市で開かれる20カ国・地域首脳会議(G20サミット)に合わせて世界の宗教指導者らが集まる「G20諸宗教フォーラム2019」が11日、京都市内で始まった。初日は全体集会や分科会があり、参加者は経済成長や科学技術の発展に伴う社会問題について意見交換した。

国内の仏教や神道関係者らでつくる「同フォーラム2019京都」(会長・瀬川大秀、和寺門跡)が主催。2日間でキリスト教やイスラム教などさまざまな宗教を信仰する十数カ国の約120人が参加する。開会式と全体集会是上京区の京都府庁旧本館旧議場であり、瀬川会長は「宗教者も現代社会が提起する問題に対し、いかに責任ある応答をしていくべきかが問われている」と述べた。

世界宗教者平和会議のウイリアム・ベンドレイ国際事務総長は基調講演で難民や貧困問題、脱炭素化を挙げ「解決、実現できていないのは政治的意志がないから

だ。われわれは倫理的な意志の構築で貢献できる。宗教界は政府、科学界と協力すべきだ」と語った。同日午後から下京区のキヤンパスプラザ京都で分科

会があり、「AI(人工知能)の脅威と人間の責任」「気候変動」などのテーマで国際機関の専門家や研究者とともに議論した。最終日の12日に宣言文を採択し、日本政府を通してG20サミットに政策提言する。(森敏之)